信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	**グローバル人材育成のための北欧教育視察プログラム**	
学部・研究科名	教育学部・教育学研究科	
実施期間	2018年9月20日 ～ 10月1日	
研修先(国・都市・施設名)	スウェーデン・ストックホルム、ウプサラ	
参加者数 ： 5名		知の森からの支援者 ： 5名
プログラム概要	本プログラムは、学部生および院生（現職教員）に海外の先進的な教育実践に触れる機会を提供することで、グローバルな視野をもった人材を育てるという意図から、スウェーデンのストックホルムおよびウプサラの学校(幼稚園、小学校、中学校の段階に当たる)を訪問した。	

実施状況・成果

本プログラムは、学部生および院生（現職教員）に海外の先進的な教育実践に触れる機会を提供することで、グローバルな視野をもった人材を育てるという意図から、スウェーデンのストックホルムおよびウプサラの学校(幼稚園、小学校、中学校の段階に当たる)を訪問する研修旅行を企画した。
9月21日(金)にはスウェーデン・ストックホルム市郊外 NackaでSaltosjö Samskola校を訪問し、教職員のSINGAPORE MATHを通した校内研修のあり方、教職員のリフレッシュルームとFIKAの過ごし方を見学した。9月24日には Nackaの Boo Gård Skola校を訪問し、個別学習による自律的な学習方法と、少人数学習における教育の質の保証に関する教育の在り方を学んだ。9月25～26日の2日間は、それぞれ学生・院生が2つの学校に分かれ、担任の指導の下、子どもの様子・授業の形態・学校マネジメント等じっくり参観した。9月27日はウプサラ市のValsätraskolan校を見学し、スウェーデンの多様な教育課題を学んだ。9月28日はウプサラ大学で、スウェーデン在住の宇野幹夫先生の講演を聴いた。スウェーデンならではの問題や教師と子どもの立ち位置について学んだ。
今回のプログラムを通じて、学部生および院生は海外の教育の現場に触れ、これまでに経験してきた日本の教育について比較しながら振り返ることができた。学部生および院生たちにとっては、自分の専門とする分野(教育)において海外の事例を目にすることができ、大変意義のあるプログラムだった。学部および国際交流課には、事前準備の段階から多くのご支援をいただき、安全に渡航することができた。なお、10月30日には教育学部で報告会を開く予定である。

学生の声①–教育学部　学生

Boo Gård Skola校でまるまる2日間教育実習として過ごすことができ、一過性の見学ではなく、深い参観ができたと思う。とりわけ、子どもたちの発言を中心とした学びに注目した。設備・遊ぶ環境・教材・学習スタイル等、スウェーデンの教育の質の高さを感じると同時に、日本の教育の素晴らしさも見えてきて、双方の共通点を探ることができた。近年、スウェーデンでは移民の問題、学習指導要領の問題等が明確になり、近未来的に日本は参考にできると思う。スウェーデンにはスウェーデンの国民性があり、良いところも日本にそのまま取り入れるのではなく、日本にあったやり方を工夫することが大事であると感じた。

学生の声②–教育学研究科　学生

スウェーデンの同学年を中心とした教科担任制、アシスタントスタッフとの連携は、それぞれの視点で見た子どもの情報を共有することが同僚性を高めるために有効に機能していると考える。連学年会・学年会が重視される背景として、その時間を保証するスウェーデンの教育体制がこれを可能にしていると考える。校長に任された裁量の多さは、雇用を含めた教師の柔軟な勤務体制を可能にしている。スクール・マネジメントの視点から見れば結果として実績に応じたスタッフの充実を生み出す。ただし過疎部に至っては教育を受けた教師の不足を生み出す要因にもなっている。子どもを多くの目で見て育てる姿勢は日本と共通である。

巧みなタブレット操作

年少期から自律的な学習スタイル